

## 野外比較試験におけるスギ花粉症患者の咽喉頭症状に関する検討

村嶋智明、伊藤周史、三村英也、内藤健晴  
藤田保健衛生大学医学部耳鼻咽喉科学教室

野外比較試験は、スギ花粉飛散期に行うことで患者の症状を自然な形で観察、評価でき花粉症治療の効果判定に有用な方法である。また、スギ花粉症患者に咽喉頭異常感や咳嗽などの咽喉頭症状を合併することが知られている。今回、我々は第2世代抗ヒスタミン薬に分類される塩酸フェキソフェナジンを用いた野外比較試験において鼻症状と共に咽喉頭症状の症状推移や薬効について検討したので報告する。スギCAP-RASTクラス2以上のスギ花粉症患者ボランティア18名を対象とし、平成16年3月7日、平成17年3月13日に敷地内にスギ林を擁する野外にて試験を実施した。被検者は乱数表にて無作為に、塩酸フェキソフェナジン群とプラセボ群とに分け服薬内容が判らないようにsingle blind testとした。10時からスギ花粉の自然曝露を開始し、11時に塩酸フェキソフェナジン（60mg/錠を1錠）およびプラセボ（グラニュー糖）をそれぞれに内服させ、30分ごとに症状スコアを記載させ16時まで行った。咳発作はスギ花粉曝露開始後、プラセボ群はスコアの上昇を認めたが、塩酸フェキソフェナジン群ではスコアを抑制した。今回の検討ではスギ花粉症患者の咽喉頭症状は塩酸フェキソフェナジン投与により症状を速やかに抑制し、その後反復曝露されても比較的長時間抑制されるものと考えられた。